

第5回新丸山ダム水源地域協議会 開催報告

- 令和6年2月29日に「第5回新丸山ダム水源地域協議会」を開催し、ダム周辺地域の魅力を高め、地域の満足度を継続的に高める地域振興として作成した「魅力をつなぐプロジェクト」、名古屋造形大学の学生にデザイン作成協力いただいた「新丸山ダム水源地域協議会ロゴマーク」、令和5年度の実施内容について報告しました。
- 今年度、3回のワーキンググループで検討してきた「魅力をつなぐプロジェクト」の実施内容と各地域における地域振興の取り組み状況（現状・将来像）について意見交換を行いました。



新丸山 第5回新丸山ダム水源地域協議会の様子

【水野瑞浪市長】魅力をつなぐプロジェクトの取組を進めているが、次の展開についても議論していく必要がある。歴史・文化等に関しては、既に磨きあげられている2市2町の資源をどのように繋げて広げていくかが重要である。

【小坂恵那市長】発酵食品サミットは、事業者も通して協力でき、良い機会となった。次年度は、恵那峡100周年となる。地域の特産品やイベントの連携に加え、水力発電等のダムを活用したクリーンエネルギーに関しても地域特有のPRとなる。

【金子八百津町長】新丸山ダム水源地域協議会ロゴマークは、更なる連携強化に繋がると良い。インバウンド観光の促進についても、調査結果も踏まえ、更なる交流人口の増加を目指すことが重要である。

【渡辺御嵩町長】インバウンド調査の結果は、地域資源の磨きあげの参考とさせて頂く。今しか見れないという視点でPRを行い、特産品や宿場町の文化を活かしながら、木曾川上流部として広域の連携を強めていくことが重要である。

【小森関西電力(株)東海支社長】魅力をつなぐプロジェクトの着実な進展が見られた。インバウンド観光においては、地域特有の体験をPRしていくことが重要。また、歴史的な地域資源と最新のデジタル技術を融合させた新旧一体のコンテンツに挑戦することも効果的と考えられる。

【稲垣木曾川ダム統管理事務所長】最新のデジタル技術も活用しながら、見れなくなる丸山ダムの「今しか見れない」姿を現状よりも更にPRし、観光資源として磨きあげていく必要がある。

【加納新丸山ダム工事事務所長】新丸山ダム周辺地域振興ビジョンをもとに、水源地域協議会で地域の方とも協力を図りながら、取り組みを進めることができた。今後の方針についても、継続してワーキンググループで議論を進めていくことが、実のある地域振興になると考えている。



瑞浪市 水野市長



恵那市 小坂市長



八百津町 金子町長



御嵩町 渡辺町長



関西電力(株)東海支社
小森支社長



木曾川ダム統管理
事務所 稲垣所長



新丸山ダム工事事務所
加納所長



作成したロゴマーク